

平成 27 年度 第 2 回 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会
議事録

開 催 日 時	平成 27 年 12 月 7 日（月）午後 2 時 00 分開会～午後 4 時 34 分閉会
開 催 場 所	安堵町役場 3 階 3 1 会議室
委 員 長	野口委員
出 席 者	野口委員、森田委員、出井委員、和田委員、 御宮知委員、角野委員、中川委員、伊藤委員 (以上 8 名)
欠 席 者	(名)
議 題	(1) 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について (2) その他
資 料	○資料 1 委員名簿 ○資料 2 座席表 ○資料 3 安堵町人口ビジョン・総合戦略策定の背景と趣旨（前回のまとめ） ○資料 4 アンケート ○資料 5 安堵町総合戦略の基本目標・具体的な施策の基本方向

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	1. 開会 ○開会あいさつ 角野委員は、遅参される旨連絡があった。 2. 町長あいさつ 西本町長 ○あいさつ 事務局 ○新委員（伊藤委員、中川委員）紹介 ○配布資料確認 本日の会議には、前回同様、安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定業務を委託しているコンサル会社を同席させていただくことを、ご了承願いたい。 安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱第6条第2項の規定により、委員の過半数以上の出席があるので、本会議が成立することをご報告申し上げます。 それでは早速、議事を進めていきたい。野口委員長に議事進行をお願いする。 野口委員長 それでは、次第により進めていきたい。 3. 議事 （1）安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 事務局 ○資料3に基づき説明 野口委員長 前回の議論の中で、安堵町は人口減少が続いているが、特に20～40代の転出が多く、その原因を調べる必要があるというご意見があった。それについて、担当課でアンケートをされているので、その結果を報告していただきたい。 事務局 ○資料4に基づき説明

野口委員長	どういう理由で総合戦略を策定することになったのか、それから、前回ご意見があったことについてのアンケートの説明があった。 少し補足したい。本来は、町外に出た人全員にフォローが必要だが、それは難しいので、安堵町に勤める職員にアンケートの協力をお願いした。 今までのところでご質問等はあるか。なければ、後ほど気が付いた時点でお願いしたい。 次に、資料について事務局より説明願いたい。
事務局	○資料５に基づき説明
野口委員長	このまま続けてお願いしたい。
事務局	○資料５に基づき説明（基本目標１ Ｐ２～）
野口委員長	それでは、基本目標が４つあるが、ひとつずつ協議を進めたい。まず２～４ページについて、ご意見、ご質問をお願いしたい。基本目標を見ていただいたら分かるように、農業、産業、就業支援、実際には起業だが、その３つが更に具体的な中味として出ている。 今日ご出席の方で言うと、行政の担当はどなたになるのか。行政側の委員が出席されているので、どなたが担当かと思った。
西本町長	産業振興課という位置付けでやっている。農業も製造業も流通業も観光も。
野口委員長	ご担当として、特に強調したいことはあるか。
堀口（事業理事）	まず３ページ上段の「施策達成評価指標」の「大和野菜の栽培品種数」が、平成２６年度９種類、目標値２０種類となっているが、先ほども少し触れられていた担い手・後継者不足がある。これを達成すべきとは思いますが、倍以上というのは難しいのではないかと。水田がなくなっていくだろうということもあるので、１５種類ぐらいに抑えておけば達成可能な数値になるのではないかと考えている。 ４ページの「創業支援事業計画」については、この計画をもっと前面に出して、その制度を利用して目標値をクリアできると入れたほうが、起業を目指す方にとってはいいのではないかと。
野口委員長	行政側からそういう提案があった。まず、４ページの「創業支援」のところだが、施策を公表してＰＲすることで起業する人をバックアップすることか。

堀口（事業理事）	そうである。
野口委員長	それを文章に入れるということか。
堀口（事業理事）	そうである。
野口委員長	それから、「大和野菜の栽培」について、私も事前に 20 種類で大丈夫かという話をした。20 種類全部作って出荷するという話ではなく、試しにどの大和野菜も安堵町で作ってみる、上手くできるか或いは風土に合っているかどうかを試してもらうということだった。
堀口（事業理事）	試してみるというぐらいなら、農業公園ですっと研究はされている。それは 20 種類近くはいつていると思う。農業者リーダー会議で研究が進められている。そういったことも含めて、31 年度目標値が 20 種類というのはクリアできるかと思う。
西本町長	これは全て出荷しているということの 9 種類ではなく、自家栽培も含めての 9 種類ということなので、全部が全部出荷できるかは別として、自家栽培も含めた目標値だと思う。
伊藤委員	資料 1 ページの【安堵町の総合戦略での基本目標】の 3 「「安堵町で新生活を始めたい、いつまでも暮らしたい」と思われる魅力あるまちをつくる」では、どういう計画を立てられているか、もし分かれば教えて欲しい。
野口委員長	それは、基本目標 3 のところでもう少し具体的な説明をされてから、ご意見をうかがいたい。次の次まで待っていただきたい。今は目標 1 に関する議論をしている。 この分野については、商工会の代表のご意見をうかがいたい。目標 1 についてどうか。
御宮知委員	安堵町の工業団地の中の企業の社長が言っていたのだが、地元の人がどれだけ工業団地の中で働かれているのか。結構少ないそうである。それには何か原因があるのかどうかは分からない。例えば、安堵町が企業を誘致しても、町の人が勤められるのかどうか。
事務局	2 ページの「町内の就業者数」だが、これは国勢調査の数字で、26 年度に

	は 650 人程度を基準値としてあげている。5 年後の 31 年度目標値として 800 人と設定している。
御宮知委員	650 人というのは、働ける年代の人口に対してどのぐらいの割合になっているのか。何割の人が地元で働いているのか。
事務局	すぐに資料を確認して回答したい。
野口委員長	最初に聞かれたのは、工業団地でどれぐらいの町民が働いているのかというご質問だったと思う。その点は分かるか。
事務局	先ほどの基本目標 1 の中の 4 ページについて、補足説明させていただきたい。「(3) 就業支援の推進」の中の「施策達成評価指標」の「奈良県内における有効求人倍率」は、26 年度「0.89」という基準値になっているが、現在、平成 27 年度は「1.06」になっている。
事務局	先ほどの商工会会長のご質問について、26 年度の安堵町に居住の方で就業されている人数は 3,290 名、その内県内にお勤めの方が 1,648 名、県外にお勤めの方が 958 名、安堵町内が 666 名、計 3,290 名である。
野口委員長	町民で就業されている人の 2 割程度が、町内で就業されているということか。
事務局	はい、そうである。
野口委員長	この割合を高めるような施策を今後打っていくことは可能か。
事務局	主婦の方等、安堵町内に職場があれば勤めたいという潜在的なニーズは多いと思う。そこを増やしていきたい。
野口委員長	他にこの農業・産業・起業についてご意見はあるか。
出井委員	安堵町の現状、特に農業についてお話があった。私も兼業だが、笠目地区で専業農家は 2 軒しかない。そのうち 1 軒はかなり高齢で、ほぼ 1 軒だけである。元々、近郊で色々な仕事をしながら農業をしているという生活実態があったが、その 2 代目、3 代目はほとんど大学を出て、安堵町外で就労して、農業を手放す人が非常に多い。私も笠目の農家組合の副会長をしているが、一番の問題は農業後継者が非常に少なく、なかなか育たないことである。

野口委員長	それをどうするのかということである。皆さんよくご存知だと思うが、今まで兼業農家をされていた方でも、後継者がいない現状がある。そういうこともあり、農業のところに「イノベーションの推進」と書いてある。何かの形で農業の革新をしないといけない。そのひとつが、後半の中ではブランドとか大和野菜がある。もうひとつは文章にある。「遊休農地をなくすため、農地の受委託を促進するとともに、受託する担い手の増加を図る～」ということを書いてはいる。この辺をもう少し詳しく書けるものだろうか。事務局どうか。
事務局	農業の魅力をもう少し表に出すために、奈良県の総合戦略が 12 月早々にできあがるので、その中味を確認すると、「農業における産業おこし」というところで、大和畜産ブランドの強化と大和野菜または安堵町で古くから作られているイチジクもチャレンジ品目としてあげて、さらなる産業おこしをするということをあがている。県から指導をいただきながら、もう一度魅力を伝えることによって後継者、または利益が出ることによって魅力が出てくるということなので、こういうことを柱に目標設定をさせていただきたいと思う。
野口委員長	総合戦略ではそこに重点を置くということだが、農地の受委託を促進するということも明確に書いてあるし、それは総合戦略の施策でもある。そういう意味では、担当課としては農地の整備のところも是非頑張っ欲しいところである。
事務局	色々な計画、K P I を定める中で、若い係長クラスから、兼業農家は可能ではないか、安堵町は大阪または京都への通勤圏内であるので兼業農家も進めていくような形になれば一番いいという意見は出ていた。遊休地をそのまま変換するのではなく、移住した中で農業を続けられるというスタイルになれば、一番継続的でいい。
野口委員長	安堵町だけの問題ではなく、全体的には農業法人みたいなところへ土地を貸すことを促進するとか、意欲のある人がやりやすくすることが大事だということは、全国的に言われている。 時間の関係もあるので、次に基本目標 2 について説明願いたい。
事務局	○資料 5 に基づき説明（基本目標 2 P 5 ～）
野口委員長	今度は 5 ページ、6 ページ、地域資源をいかした交流、或いは観光ということでの戦略の提案があった。これについて、ご意見はあるか。

森田委員	この基本目標2の中で、気が付いたことが2、3あった。5ページの「イベント参加者数」が9,800から12,000、観光戦略の中で「灯心ひき技術」の保存活動を支援し、灯心をさらに掘り下げた企画を検討し〜」というところがある。文化の特色を生かしている安堵町ということだが、その辺の文化をどう捉えていくかが私にはピンとこない。安堵町で文化を取り入れて、文化を拠点に外へPRするというのは、どういう内容のものか。例えば、富本憲吉記念館がまだ存在するのであれば、しっかりとPRできると常々思っていたが、なくなってしまった。それを機に魅力がなくなったという思いがする。厳しい意見だが、このままの安堵町で観光客が来るのか。どこへどうして来るのか。その辺に原点の気持ちを置きながら、この基本目標2については十二分に考えていきたいという思いである。 それから、「イベント回数」を6回から目標8回ということだが、安堵町は村の当時から町になって全然イベントがなかった。11月に行われた産業フェスティバルが唯一のイベントだった。教育委員会等で文化祭等、諸々の行事はその都度開催されているが、イベントという形で産業フェスティバルが開催された。ここ4～5年は、桜見の会とか芋煮会等が増えてきた。その少し前に盆踊り大会があった。そういうことで増えてはいるが、実態を考えるともう少し合理的にできないかと感じている。産業フェスティバルと芋煮会は、一か月以内でセッティングしている。この中で別々のイベントをして、どう効果があるのか。どちらかに集中してやっていけば、もっと盛り上がるものができるのではないかという提案もある。イベントの回数を増やすことについて、どうすれば効果がうまれるかが私自身疑問な点である。
野口委員長	なかなか厳しいご意見だったが、指標としてはイベントの回数をこれだけするというのはあるが、5ページに「イベント参加者数」がある。回数を増やして、更に参加者も増やすという目標になっているので、戦略にどう書くかだが、やはり内容の充実とかよく練った計画に努めて欲しいというご提案だと思う。やるからには良いものにしなさいということだと思う。
森田委員	冒頭に「観光客の増加に努めます」と書いてある。これがどうも見えてこない。文化面に対しては色々あるので、そういったことに触れていただく機会は大変だと思う。だが、「観光」という表現は安堵町にはそぐわないという気がする。
野口委員長	ただ、今は文化を求めて来られる方もいる。国の観光立国という政策の中では、文化的なものを求めて来てくださる方も「観光客」という言い方をしている。
森田委員	有償で来られる方が「観光」という解釈か。斑鳩町は、当然法隆寺もある

西本町長	ので「観光」というものがあると思う。安堵町で「観光」をどう捉えるべきかと思った。 おっしゃることも一理あると思う。例えば最近、ウォーキングがすごく盛んである。ウォーキングやハイキングも大きな意味では観光である。例えば法隆寺であれば、拝観料やお土産を買うということが、観光客が来る一番大きな経済的効果である。今おっしゃっているのは、今、安堵町へ観光に来てお金を落としてくれるのか、ウォーキングに来てごみは落としても金は落としてくれない、そういうのを観光と言えるのかという疑問かと思う。安堵町をPRすることで、ハイキングでもいいから来てもらう。そこでお金を落としてもらうための施策である。例えば安堵町の特産品を作り上げていく、そこでお金を落としてもらう。ここまでのプロセスをきちんと仕上げないことにはいけない。観光は産業として位置付けている。文化的な研究もさることながら、産業という位置付けでお金を落としてもらう。これは大きな行政効果だと思うので、そこを仕上げないことには、いくらここでいいことを書いてもなかなか実感できないと思う。そこをどうするのかは、これから住民の方々と一緒になって考えていくことが一番大事だと思う。今おっしゃったように、富本憲吉記念館がなくなった。魂は残っているが、物そのものは新しくリノベーションして、ゲストハウスに変わる。ゲストハウスに変わり、有名な物産品を取り扱うことになる。そういう、少しいい物が買える、泊まることのできる、お昼ご飯を食べるところもできる、これはひとつお金を落としてもらう大きな要因になる。そういうものを積極的に展開できるような施策をどう考えていくのかが、一番商業・産業として難しい問題である。文で書くのは簡単だが、そこをどうしていくのかは大きな課題だと思う。
野口委員長	まさにその通りだと思う。
出井委員	イベントについては、盆踊りや産業フェスタ等色々あるが、特に盆踊りはものすごい人である。産業フェスタも早くに行かないと売り切れてしまう。安堵町はイベントについては定着化していて、町民は楽しんでいると思う。それが観光かと言われると、そうではない。観光となると、ウォーキングでもやはり斑鳩町になる。大型の駐車場もある。安堵町独自で安堵町だけに来てもらうのではなく、斑鳩町に来られた方に安堵町にも来てもらうという協力体制を取ったほうがいいのか。斑鳩町も法隆寺というすごいものがありながら、意外とお金が落ちていない。
野口委員長	人に来てもらい、どれだけ町にお金を落としてもらうか。その第一条件のひとつは、町内に滞在してもらう時間をなるべく長くする。長くいると必ず

	お腹もすくし、休憩もしたくなるし、トイレにも行きたくなる。その時にどれだけ快適な場を町として用意できるのか。もうひとつは、出井委員がおっしゃった安堵町だけでなく他町と協力してということだが、それについては6ページの最初に「～行政区域を超えた散策道をメインとして～」とあり、戦略の中にも入れてある。 他に基本目標2について、何かご意見があればお願いしたい。
角野委員	イベントの数は多くなっているが、運営側が全て一緒ではないか。一緒であれば、数を増やせばその方の負担が増える。その方がやっておられる間はいいが、次にされる方が大変だと思う。その辺はいかがか。
森田委員	今、すごくいい意見をおっしゃった。
西本町長	観光でも文化でも、この国内でものすごく右肩上がりて活性化していく、観光客も増やしていく、この初期の段階は、すごく熱心な人、それに没頭する人を引っ張っていく団体がぐっと上がっていく。おっしゃったように、そこが登りつめてしまって高齢化していき、振り返るとついて来てくれる人があまりいない。これをどうするかという意味だと思う。本来はその団体の中で、後継者を養っていただくのが基本だと思う。我々行政も当然一緒になってやっていく。一番良い例が奈良の燈花会だと思う。最初のスタートは、奈良市と奈良県の観光担当課がやりかけた。そしてサポーター等を集めてきて、2～3年はそのスタイルでいった。ところがだいたい30～40歳代前半の方々が、行政の力をあまり借りずに自分達でしよう、逆に行政は横で見ているとくれということで、今あのようにすごく素晴らしいものになっている。本来のボランティアというのは、そういう形だと思いはするが、なかなか人口の多いところと、こういう小さいところでは事情が違う。どうしても第一線を退いた方が中心になっていく。30～40歳代の人には、また若い人がついて行くから、世代交代が割と上手くいく。そのあたりが大きい町と小さい町との地域特性があると思う。きれいな言葉で言えば、一緒になってやっていくということしかないと思うし、団体の方にも後継者を育成してもらって、一人の人に集中するのを、各行事毎に責任者を分けて仕組みも変えていただきたいという思いもある。これから話をしていかないといけないと思っている。とりあえずは、住民の方々に盛り上げていただくことが基本なので、有難く思っている。
野口委員長	基本目標の中に、住民と行政が一緒にやっていくということと、その中で担い手を育てていくといった文言を入れていただいたほうがいいのではないか。 時間も迫ってきたので、基本目標3の説明をお願いしたい。だいたい4時

	には終わるようにということなので、なるべく時間を守りたい。
森田委員	終わりの時間を設定するのもいいが、その都度の集約ができていくのか。細かく話を聞いていけば、その総括もまとめていかないといけない。そのまとめ方がいいのかも、この委員会としてやっていかないといけない。残りの基本目標 3 と 4 に進むのはいいが、今度その総括はするのか。
野口委員長	総括と言うかお願いとしては、今日の議事録の中で出た意見をどのように文言として入れていくのか、担当課も入って検討していただく。その結果を、私は委員長なので事前に見せていただくにしても、もう一度この有識者会議を行うので、その時には前回の議事録を踏まえた変更点を中心に説明をいただき、ご意見が反映されるようなやり方を取っていききたいと思う。
森田委員	私はたまたま議会の代表として来ているが、その都度これをより確実な成果のあるものにしていくためには、議会にもその都度説明をしていきたい。説明をしながら、了解を踏まえながら、最終的に施策として作っていただきたい。あと 20 分で基本目標 3 と 4 をやっていくということだが、それが可能なのか。
野口委員長	時間のことは皆さんのご了承をいただければ、何が何でもというわけではない。
森田委員	私の責任上、その都度説明をしていきたい。
野口委員長	今日の議論は全て踏まえた上で、計画にできるだけ盛り込んでいく。もしできないものが出てきた場合には、できませんともう一度お返しするといったプロセスは、必ず迎えるとお約束したい。
出井委員	時間もあるし、安堵町だけではなく、日本全体で抱えている大変難しい問題だと思う。今すぐここでまとめるのではなく、こういう話があったということで次回までに修正を加えるなりしていただき、次に進んでいただければいいと思う。ここで解決策が出るような簡単な問題ではないと思う。我々は住民としてこう思っているという意見だけ述べさせいただいているので、次に進んでいただきたいと思う。
西本町長	真摯な論議を、もっと重ねていけばというご意見だと思う。例えば、今日もう少し時間を延ばしてもらおうということは可能かどうか。
野口委員長	これから基本目標 3 と 4 を議論するので、もしかしたら時間が延びるかも

	しれないが、今日ご参加の皆さんは 30 分程延びても大丈夫か。困るという方はおっしゃって欲しい。よろしいか。議長としてもそれ以上延びないようにしたいと思う。 それでは、基本目標 3 について。
事務局	○資料 5 に基づき説明（基本目標 3 P 7 ～）
野口委員長	今の基本目標 3 の説明について、ご質問、ご意見があればお願いしたい。
出井委員	まず子育て支援の問題について、私は民生委員もしているが、特に主任児童委員、或いは民生委員からもずっと話をしている出てくるのは、生駒郡 4 町のうち他の 3 町については、子どもを毎日預かるというか、一緒に、例えば斑鳩町ではいきいきプラザみたいなものがある。ただ、人口比から言うと子どもの数が少ないので、安堵町の場合はそれを開いても、それだけの人が来るのかどうかという問題があるが、子どもと親と一緒に色々な交流ができる場所の提供があればいいという話は、常に出ている。
事務局	8 ページをご覧いただきたい。保健センターで出産前はファミリークラス、出産後は子育て教室を定期的に開催している。保健センターの部屋を借りて、ママ友の皆さんが子育てサークル等、色々な会をされている。それをサポートする方が 4 人しかおられないので、もっと支援していただく人を増やそうということで、新しく子育てサポーター養成講座を実施して、地域ぐるみでサポートして、以前より強化するという意味でここに網羅させていただいている。
野口委員長	中川委員、いかがか。
中川委員	私だけの意見ではなく、保育園のお母さん方から時々聞くのは、安堵町は保育料が高いということである。今年度は大分下げていただいていると園長から聞いたが、やはり共働きでそれなりに収入があると、ランクが色々あるので、感じ方は色々だと思う。 それと子どもの医療に関係したことで、安堵町は小学校に入る前の 3 月末で補助がなくなる。斑鳩町だと、もう少し上の年齢まで補助があったと思う。財政上厳しいのか、教えていただきたい。
事務局	7 ページをご覧いただきたい。「主な取組」のところで、継続強化の項目がほとんどだが、新規に網羅されているのが 1 行目の「不妊治療に係る支援」と 8 ページの 3 行目「子ども医療費助成の充実」ということで、今の医療費助成から更に充実させていこうという計画はしている。具体的には財政的な

	こともあり、まだ提示できないが、こういう形で計画は立てさせていただきたい。
野口委員長	よろしいか。それでは、伊藤委員はいかがか。基本目標３について、ご意見はあるか。
伊藤委員	特にない。
野口委員長	他の方は。
森田委員	９ページの「主な取組」に「ＩＣＴ教育の充実・語学教育の推進」とあるが、具体的にどの程度の推進をされるのか聞かせて欲しい。
事務局	ＩＣＴ教育の充実については、教育現場からの色々な要望もあるかと思うので、具体的にｉ－Ｐａｄの使用等があがってくるかと思うが、色々なことを考えて、最も効果的なところから取り組むつもりである。語学教育の推進については、学校教育の現場では単位数や授業数が限られてくると思う。決まった時間数で決まった教育要領に則して実施しなければならないので、基礎学力的なことを現状通り行いながら、学校から離れてカルチャーセンター等を借りて、希望者を募って語学教育の強化ができればと考えている。全員参加といきなり盛り込むのではなくとは考えている。
楮山（教育長）	ＩＣＴ教育については、現状学校では電子黒板、パソコンを利用して、子ども達が大きな画面を見ながら、先生はパソコンを操作しながら、授業を行っている。これはＩＴ教育の一環だが、ＩＣＴになると、先生が持っているタブレットと子ども達が持っているタブレットをリンクさせて、先生が質問をした時にそのタブレットを使いながら授業を進めていく。電子教科書もある。そういう形で将来を見通した中で、入れていただいていると思う。これからの教育の中味が大きく変わっていく時代がきていると思う。それと語学教育だが、本来は５年生、６年生に外国語教育が既に入ってきている。私どもの小学校は、ネイチャーの先生に来ていただいている。時間数は少ないが、１年生から英語教育を導入していつているので、更にそのことも充実させて、中学校へ繋いでいける語学教育ができるのではないかと。我々が英語の勉強をした時には、まず文法からで英会話をする英語ではなかった。今はだんだんそのようになってきている。国際的な感覚を身に付けるための今後の語学教育を進めていけると思う。
野口委員長	丁寧に説明いただいたと思う。いかがか。

森田委員	前回の会議で、何故 20～40 歳代で転出する方が多いのかという話の時に、私は教育のことを提案していた。その時にお願いしていたのは、この中の特に語学教育の推進だった。他の学校以上に、例えば英検 4 級ぐらいまで取得できる内容のことは検討していただいていないと思う。安堵町独自で学校の特色を出していただいて、もう少し強調して踏み込んで、ここに付け加えていただければ有難い。
野口委員長	他にないか。なければ、4 の説明をしていただきたい。
事務局	○資料 5 に基づき説明（基本目標 4 P12～）
野口委員長	かけ足だが、目標 4 についてのご意見をうかがいたい。
和田副委員長	目標 4 だけでなく、副委員長の立場をいただいているので、全体の意見と言うよりはお願いに近いようなことだが、3 つ程申し上げたい。 まずひとつ目だが、先ほど議長がおっしゃったことと全く同じだが、前回会議で各委員からいただいた貴重なご意見が、今回のものにどう生かされているのか。その辺が分かり難い。先ほど委員長に次回会議で報告いただけるとおっしゃっていただいたので、次回に是非ともお願いしたい。 2 つ目は、他の市町村でも非常に悩まれている部分だが、安堵町らしさというのは一体どこにあるのか。安堵町にしかない部分、特色というのは、どこに持っているのか分かり辛い。計画ができて県へあがっていく段階で、色々査定されていく中で、恐らく安堵町らしさはどこかということが出てくると思う。一度ご検討いただきたい。 3 つ目は、1 つ 1 つに目標が立っているが、具体的にになっていく時に、例えば 150 人増やすのにあたって、この施策で 50 人増やすという目標にはなっていない。例えば、PDCA サイクルを回していく時に 9 種類が 20 種類になっても、150 人増えなければ、目標としては違うのではないか。今、東京一極集中をなくして、地域に人をどんどんと言っている中で、せっかくこういう意欲的な目標を立てているので、例えば町内の休耕地 50 反に対してよそから 50 人引っ張ってくるという目標のほうが、なんとなくこの 150 人増やすということに直結するのではないか。そういう目標の立て方は難しいとは思いますが、これ自体は非常に大事なことだと思うので、これを否定している訳ではない。お願いなのでそれをしてくださいと言っているわけではないが、ご検討いただけたらと思う。
野口委員長	まず、1 番についてはその通りだと思う。2 番目については、非常に難しいところだが、皆さんご意見があれば是非。

伊藤委員	15 ページの「犯罪ゼロの推進」について、私はたまたま安堵町の防犯防災推進協議会の会員として、青色回転灯で小中学生の通学路を巡回している。青色回転灯車両 6 台が日々巡回している。一時は、子どもに対する声かけ事案等が発生していたが、今現在はそのような事案は一切発生していないと自負している。今後も防犯協議会としても、より強固な防犯活動をしていきたいと思っている。
野口委員長	犯罪のない町づくりというのは、ひとつの安堵町らしさになると思う。和田副委員長がおっしゃった、安堵町らしさをどう出していくのかということは、すごく難しい課題だと思う。どなたか良いご意見があれば、聞かせていただきたい。
森田委員	安堵町らしくとおっしゃっているのは、私もその通りだと思う。ひとつでもふたつでも、安堵町らしい成果が出てくれればいいと思う。
出井委員	コミュニティバスの利用者数が出ていたが、今年から法隆寺までバスが出たということで、利用者数が倍増した。足の確保については、コミュニティバスを安堵町に導入されて、効果があがっていると思う。 笠目でも、30 代・40 代のシングルがすごく多い。婚活はテレビでよくやっているが、そういう出会いの場を行政からも支援して欲しい。結婚されると人口も増えるし、子どもも当然できる。安堵町だけでなく、生駒郡全体がそういう問題を抱えている。
野口委員長	提案として、出生率を上げるためにも出会いの場をどう作っていくのか、検討していただきたい。例えば、ひとつの町ではすごく狭いので、郡レベルで若者を対象にイベントをして、結果的に出会いの場を作るようなことを考えているところもある。 お約束の時間を過ぎているが、どうしてもこれは言っておきたいという方があれば、お願いしたい。なければ、これで基本目標 1 から 4 の審議を終わりたい。 (2) その他
野口委員長	その他について、事務局から何かご提案はあるか。
事務局	第 1 回目と本日第 2 回目のご意見の整理をし、どういう形で反映させたかもきちんとさせていただきたい。次回は 1 月末または 2 月初めに開催したいと思う。また後日、日程調整をさせていただきたい。

野口委員長	それでは以上を持って、本日の第2回安堵町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を閉会したい。 皆さんどうもありがとうございました。 4. 閉会
-------	---